



校長室だより 12号

中島 悟

【部活動紹介】 バスケットボール部、 ソフトボール部

1	バスケットボール部	旧顧問	西牟田 貴子	20周年記念誌より抜粋
2	男子バスケットボール部		投稿者不明	30周年記念誌より抜粋
3	女子バスケットボール部		投稿者不明	30周年記念誌より抜粋
4	ソフトボール部	旧顧問	外山 景嗣	20周年記念誌より抜粋
5	「ソフト部活を終えて」		荒武 美保子	20周年記念誌より抜粋

バスケットボール部 (原文) 旧顧問 西牟田 貴子

振徳高校バスケットボール部は、学校創立2年目の昭和46年に生徒からの強い希望で設立されました。生徒の期待に応えて顧問に就かれたのは長友敏行先生でした。当時本校にはまだ体育館がなく練習もままならないというのが実情でしたが、部員たちは皆グラウンドで熱心に練習に励んでいました。雨のたびに練習ができなくなってしまうもどかしさも、部の設立を喜ぶ生徒たちにとっては何でもなかったのかも知れません。

翌年には念願の体育館も造られ、バスケット部らしい活動もできるようになりました。そして顧問が宇都宮哲章先生へと替わった2年目の昭和48年には、当時名を馳せていた油津中学校バスケット部の出身者を中心とするメンバーで、いくつかの大会でかなりの好成績をあげられるまでに成長しました。

念願だった体育館での練習が可能になったものの、やはり苦労はありました。バレー部はじめ体育館を練習の基地にする部は多く、ふだんはハーフコートでの練習ばかり。オールコートを使うために日曜日の早朝、練習に励んだこともしばしばでした。また、バスケットを専門とする先生が顧問に就かれることがなかったせいもあり、技術の向上を願う生徒たちの、思うように上達しないことに対するいらだちが余計に前進を妨げることもありました。そういう過程を何度も繰り返しながら今日のバスケット部へ至るわけですが、その間大会で記録に残る活躍を見せることもあまりできませんでした。体育館共有など、いくつかの困難もやはり相変わらずです。

しかし、バスケットを愛する生徒たちの熱意は常に衰えることがなく、特にここ数年は熱心に練習に取り組み、技術の研究も自ら積極的に進めています。

振徳高校が20周年を迎えるとともに、私たちバスケット部も間もなく20周年です。これを機に、新たな一步を踏み出したいと心新たにしているところです。

男子バスケットボール部 (原文)

平成6年に13名の勇士が集まり同好会ができました。ユニフォームを作るため夏休みは午前中の練習後、「今回は吾田、明日は鉄肥」と廃品回収をして、やっとの思いで作った真新しいユニフォームを着て、平成8年に初めて県高校総体に出場しました。

週に一度、休みは火曜日だけ、後は毎日練習に汗を流しています。なかなかいい結果残せませんが、先輩の意志を引き継ぎ一戦一戦を大切に勝利を目指したいと思っています。

女子バスケットボール部 (原文)

平成6年に男子の同好会ができ、一緒に練習をする様になって益々活動が活発化しました。スピードやパワーのある男子のプレイを見ることはとてもいい刺激になります。各種の検定や勉強との両立に悩んだりもしますがとにかくバスケット好きの集まりです。ここ1～2年部員不足が続き、今年は3年生が引退してからは7名になりましたが、多くの先輩方の汗と涙を無駄にすることのない様1本のシュートや1つのパスに心を込めて頑張っていきたいと思っています。

ソフトボール部 (一部略) 旧顧問 外山 景嗣

ソフトボール部が創部されたのは、昭年45年、開校の年だったそうである。当時の監督だった浜田節夫氏によると、南郷方面からの汽車通学生が多く、3時の下りに間に合わないとの列車までの待ち時間が2時間ほどと長いのでその間を利用して当時の教員で部活動をさせようとしたものだそうである。従って部員も初心者が多く、「2年位は選手が練習試合も嫌がったので困りました」とおっしゃっている。開校当時の先生方の苦勞と意気込みが感じられる。

以後、徐々に力をつけていき、都城商業から福隅敏明氏が着任、河野真範氏とともに、部長及び監督として指導にあたってから黄金時代を迎えた。主な戦績を挙げると次のようになる。

高校総体	昭和55～60・62年度	3位
新人大会	昭和55・57・58年度	3位
県南六高校大全	昭和58年度	優勝（日南学園を破る）
国体予選大会	昭和56年度	準優勝

以上のように強さを誇ったソフトボール部もここ1・2年、目立った成績を挙げていないが選手達は先輩の築いた伝統を守り、追いこそうと日々、練習に励んでいる。今後とも応援をお願いしたい。

ソフト部活を終えて (原文) 荒武 美保子

3年間、ソフトボールをやってきて、本当にいろんな事がありましたが、3年間続けて本当に良かったと思います。

1・2年の時は、必死に先輩たちについて行く事だけを考えていましたが、練習がきつくてやめたいと思った事があります。夏のノック、冬のインターバル、トレーニング、これは本当に苦しかったです。しかし、この練習の成果が高校総体に現われました。

ベスト4を目標にチームが一体となり、一球一球を大切にプレーしました。その結果が目標のベスト4を達成できたのだと思います。はっきり言って、今でも信じられませんが、とても嬉しい思い出です。

先輩方が引退され、私が主将に選ばれましたが、やっていけるのだろうかという不安ばかりでした。いろんな事がありました。もめ事もたくさんありました。その度に、なぜキャプテンになったのだろうと思いました。チームをまとめきれない自分にも腹がたちました。でも、チームみんなの協力があつたので最後までやれたのだと思います。くやしくて泣いた試合、うれしくて泣いた試合いろんな試合がありました。でもそれも今ではとても良い思い出です。ソフトボールをやってきて、一人の人間としても大きくなれたような気がする。これも先生方の御指導のおかげだと思います。これからも振徳ソフト部の活躍を期待します。